

「びわほなみ」の赤かび病防除と実肥施用を
 計画的に実施しましょう!

1. 気象および「びわほなみ」の生育状況

播種後気温が平年並～やや低く推移したため生育は停滞していましたが、2月の高温により、生育が促進されました。ただし、生育が不齊一なほ場が多くなっています。3月は再び低温に推移したため生育は停滞傾向にあり、出穂期は平年並と見込まれます。

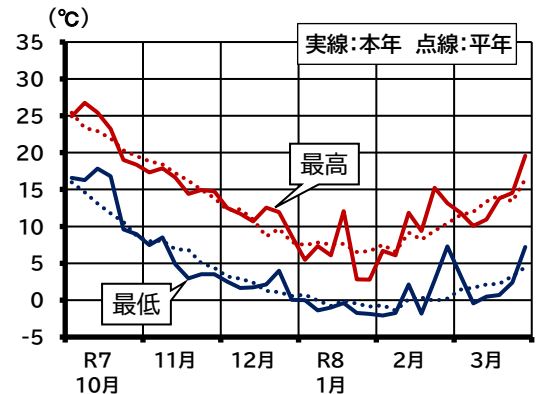


図 麦作期間の気温の経過

2. 品質・収量確保に向けた管理
 (1) 赤かび病防除

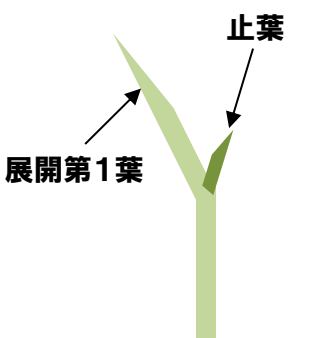
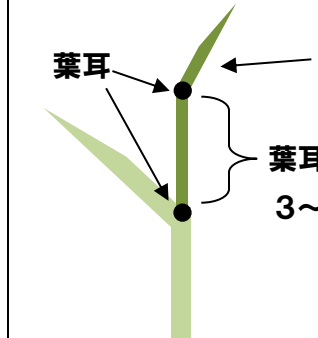
「びわほなみ」は赤かび病に弱いため、必ず2回防除を実施し、必要に応じて(注意報の発表等)3回目の防除を前もって計画してください。防除時期について、1回目は開花始め、2回目は1回目の1週間後です(3回目は2回目の1週間後)。気温の経過により、出穂期～開花期の日数は変化しますが、以下の目安を参考に防除の準備を進めましょう。

【防除適期の目安】

地域	播種時期	出穂期の予想	1回目の防除 (開花始め)	2回目の防除 (1回目の1週間後)
平地	11月上旬	4月10日前後	4月15日～ 4月20日頃	4月22日～ 4月27日頃
	11月中旬	4月13日前後	4月18日～ 4月23日頃	4月25日～ 4月30日頃
中山間	11月上旬	4月15日前後	4月20日～ 4月25日頃	4月27日～ 5月2日頃
	11月中旬	4月20日前後	4月25日～ 4月27日頃	5月2日～ 5月4日頃

※今後、気温が低く推移すると、出穂時期、開花時期は予想から遅れが見込まれます。裏面を参考にほ場ごとに防除適期を判断しましょう。

(参考)「びわほなみ」の生育予測

出穂約17日前	出穂約1週間前	出穂期
		40~50%の茎から穂先が出ている状態
		開花始め
		出穂5~10日後 (気温によって大きく変動)

(2) 実肥施用で収量と品質向上

実肥は収量増加やタンパク質含有率の向上に効果があります。穂数が多く、生育良好なほ場では収量が高くなるため、タンパク含量が低下しやすい傾向にあります。このため、出穂期前後の生育をよく確認し、葉色の低下が見られた場合は出穂10日後頃（開花期）に、窒素量で4kg/10aを目安に実肥を施用しましょう。特に速効性肥料（硫酸、尿素等）を穂肥として施用したほ場では、生育後期の栄養不足に注意してください。

※4月上旬現在、ほ場全体の葉色が淡い栄養不足のほ場が多く見られるため、このようなほ場では施用を計画してください。

(3) 排水対策の徹底

湿害が発生しているほ場が散見されます。

排水不良は根の伸長を抑制し、登熟を悪化させますので、尻水戸からスムーズに排水されているか確認して、排水促進に努めましょう。

